



まずは自分で問題を解いてから、下の解説を読みましょう。  
 解説には、    内に解決する際のポイントを示していますので、参考にして再挑戦  
 してみましょう！

【一】 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

私は人口減少がもたらす変化に対応するための「しなやかさ」を身に付けるには、エンパシーと呼ばれる力が極めて重要になると考える。エンパシーには日本語にビタリとはまる訳語がなく、聞きなれない言葉だが、シンパシーと似ている。Xその意味は少々異なっていて、シンパシーが「自分は違う立ち位置にいて、相手に同情すること」を指すのに対し、エンパシーは「自分も相手の立場に立って、気持ちを分かち合う」ことを意味する。例えば、穴に落ちて困っている人への対応をイメージすれば分かりやすい。落ちた人を穴の上から覗いて心配することがシンパシーだ。これに対して、自分も穴の中に降りていって、一緒に解決策を考えるのがエンパシーである。自分と違う価値観や理念を持っている人が何を考えているかを想像する力とも言えるだろう。コミュニケーション能力の基礎である。

なぜ人口減少社会においてエンパシーが極めて重要になるのかと言えば、これから訪れる社会はいままで日本とは全く異なるからだ。繰り返すが人口減少がもたらすこれからの激変は、すべての分野に例外なく起こる。そして誰も経験したことのない大きな変化となる。過去の経験則や知識といったものは役に立たないのだから、各人がおのおの立場を超えて理解し合い、新たな知恵を出さざるを得ない。私は地域の暮らしにおいて「助け合い」の必要性を繰り返し説いてきたが、世代を超えたコミュニケーションを形成し、生かしていくためにはエンパシーによる相互理解は不可欠なのである。

例えば、二十一世紀の日本は超高齢社会が進んでいく。社人研の推計では二〇六七年の百歳以上人口は五十六万五千人となり、その年の年間出生数五十四万六千人を上回る。九十年代に限っても五百八十六万七千人だ。これだけ多くの九十年代、百代が暮らす社会は世界のどこを探してもないだろう。予期せぬことがどんな形で起きてくるのか想像もつかない。

現状で言えることは、もしこれらの年代の人々の暮らしが成り立たなくなれば、若い世代の社会的負担はさらに大きくなり、社会全体に少なからぬ影響が出てくるということだ。九十年代、百代の人々の暮らしを支えていくためには、まずはこうした年齢の人々がどのような環境に置かれているのかを知るのだ。どんなことに喜びを感じ、どんな悩みを抱えているのか、理解する必要がある。いまやA1によって、視力の衰えた高齢者の視界がどれほどまでに狭まっているのかを簡単に映像化することができる。筋力の衰えでどれどらいの歩行スピードとなるのか、あるいは握力が弱り、瓶の蓋はどれほどの硬さになったら開けられなくなるのかといったこともシミュレーションし、疑似体験することも可能だ。違う立場の人々を理解するために積極的にアプローチをしないかぎり、真に必要な政策を講じることはできない。ニーズを把握してマーケットを掘り起こすこともできない。

ビジネスシーンで言うなら、働く世代の激減に伴って外国の人々とさまざまなチャンネルで交流する機会も増えるだろう。商習慣に始まり、文化や価値観を含めてお国柄の違いに戸惑い、摩擦が生じる場面も断然多くなるだろう。日本人同士でもテレワークや在宅勤務が普及するにつれて、直接会うよりも正確な情報のやり取りや意思の疎通が求められるようになってくる。これまで以上に相手の立場になってものを考え、世代を超えた相互理解を図るべく積極的に努力しない限り、社会は円滑に回っていかなくなるということである。エンパシーとは、人口減少社会になくならない潤滑油なのである。

言うまでもなく、他人に寄り添う気持ちの強さは、誠実さや礼儀正しさなどと並ぶ日本人の代表的な国民性であり、美徳だ。そうした意味では、エンパシーが日本社会に定着しやすい素地はある。すでに身に付けているという人も少なくないことだろう。X子供について考えるならば、エンパシーが自らの体験の中から学ぶものである以上、価値観が異なる人との交流や、異文化に接する体験はなるべく小さな頃から積んでおいたほうがよいが、一方で最近は少子化で学級数は減っており、クラス替えすらままならないという学校も増えてきている。今後は幼少期の教育において、高齢者との交流や外国人と一緒に行動したり、遊んだりする機会を意図して増やしていくことも考えなければならなくなるだろう。

（河合雅司『未来を見る力 人口減少に負けない思考法』による。一部改変）

（注）社人研：国立社会保険・人口問題研究所の略。 A1…人工知能。推論、判断などの知的な機能を備えたコンピューター・システム。

問五 次のの中の文は、本文中の「しなやかさ」について述べたものである。

書き手の述べる「しなやかさ」とは、人口減少に伴いアが役に立たなくなる中で、イできる柔軟性のことである。

やや難

- (2) (1) アに入る内容を、本文中から九字で探し、そのまま抜き出して書け。  
イに入る内容を、二十五字以上、三十字以内で考えて書け。ただし、価値観、変化 という二つの語句を必ず使うこと。



次のように解きます。

問五(1) 空欄アの解き方は省略

(答) 過去の経験則や知識

問五(2) 空欄イ

[1] 問われている内容と答え方の条件を確認する。

○ 問われている内容…書き手の述べる「しなやかさ」について読み取る。

⇒ 「しなやかさ」とは、どのようにできる柔軟性のことであるかを読み取る。

○ 答え方の条件…指定された語句(価値観、変化)を用いて、25字以上、30字以内で考えて書く。

⇒ 指定された語句が、本文中に用いられているかどうかを確認する。

〈価値観〉→本文中で、「違う(違い)」や「異なる」という語とともに用いられている。

・ 形式段落2: 「自分と違う価値観や理念を持っている人が何を考えているかを想像する力とも言えるだろう。」

→ 形式段落2: 「自分も穴の中に(中略)、一緒に解決策を考えるのがエンパシーである。」の言い換え【※1】

・ 形式段落6: 「文化や価値観を含めてお国柄の違いに戸惑い、(中略)多くなるだろう。」

・ 形式段落7: 「エンパシーが自らの体験の中から学ぶものである以上、価値観が異なる人との交流や、(中略)クラス替えすらままならないという学校も増えてきている。」

〈変化〉

・ 形式段落1: 「私は人口減少がもたらす変化に対応するための「しなやかさ」を身に付けるには、エンパシーと呼ばれる力が極めて重要になると考える。」

→ 波線部「しなやかさ」を含み、指定された語句(変化)が用いられている一文

→ 波線部「しなやかさ」は、エンパシーと関わりのある言葉

・ 形式段落3: 「そして誰も経験したことのない大きな変化となる。」

→ 形式段落3の冒頭三文の内容…これから訪れる人口減少社会は誰も経験したことのない大きな変化をもたらすため、エンパシーが極めて重要になる。【※2】

[2] 指定された語句(価値観、変化)の本文中における関わりを考える。

○ 【※1】、【※2】から、価値観も変化も、エンパシーに関連して用いられている語句である。

⇒ これから訪れる人口減少社会は誰も経験したことのない大きな変化をもたらすため、自分と違う価値観や理念を持っている人が何を考えているかを想像する力であるエンパシーが極めて重要になる。

**ポイント** 指定された語句が本文中でどのように用いられているのかを確認し、指定された語句の本文中における関わりを考えよう。

[3] 「しなやかさ」とは、どのようにできる柔軟性のことであるかについて、答え方の条件に従って解答を書く。

○ 字数を気にせず書いてみた後に、指定された字数[25字以上、30字以内]に合うように調整していく。

・ 自分と違う価値観や理念を持っている人が何を考えているかを想像する力であるエンパシーによって、これから訪れる誰も経験したことのない人口減少社会がもたらす大きな変化に対応(できる柔軟性のことである。)[83字: 字数超過]

↓ \*意味の重複を含めて、言葉の重複を解消する。 ・人口減少(空欄アの前にある) ・エンパシー

・ 自分と違う価値観や理念を持っている人が何を考えているかを想像する力によって、社会がもたらす大きな変化に対応(できる柔軟性のことである。)[53字: 字数超過]

↓ \*重要でない部分を削ったり、字数の短い語句に置き換えたりする。

・ 違う価値観や理念を持つ人の考えを想像する力によって、社会の変化に対応(できる柔軟性のことである。)[34字: 字数超過]

↓ \*言葉のつながりや字数制限に留意して全体を調整する。

・ 異なる価値観や理念を持つ人の考えを想像し、社会の変化に対応(できる柔軟性のことである。)[29字: 字数制限内]

○ 考えた解答を空欄に補充し、文意が通るかどうかを確かめる。

・ 書き手の述べる「しなやかさ」とは、人口減少に伴い過去の経験則や知識が役に立たなくなる中で、異なる価値観や理念を持つ人の考えを想像し、社会の変化に対応できる柔軟性のことである。→ 文意が通る

(答) (例) 異なる価値観や理念を持つ人の考えを想像し、社会の変化に対応 [29字]

**ポイント** 意味や言葉の重複を解消したり、重要でない部分を削ったり、字数の短い語句に置き換えたりして、字数を調整しよう。



二 (1) 次の【文章】を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【文章】

「ここまでのあらずじ」老舗車いすメーカーの藤沢製作所で働く山路百花は、採用面接のことを回想している。面接者は、社長の藤沢由利子、社員の小田切、石巻であった。由利子に志望理由を問われた百花は、親友で車いすテニス選手の君島宝良がきっかけとなって車いすに興味を持ち、競技用車いすの製作を仕事にしたいと思うようになったことを、情熱をこめて答えた。すると、宝良の活躍が話題になった。

「ただ彼女の場合は、その前の一般テニスのキャリアも相当のものでずから。高校二年で受傷する前はインターハイ出場経験もあるそうで、テニス技術ははずば抜けています。ただ、まだチェアワークがベテラン勢に追いつかず、そのせいでグレードの高い大会では優勝争いに食い込めずにいるんですが、これでチェアスキルも身につければ七條玲に次ぐ日本のトッププレイヤーになると思います」

百花は、宝良がいずれ日本だけでなく世界までも舞台にして戦う車いすテニスプレイヤーとなることを疑ったことはなかった。けれど、自分以外の誰かがはつきりと宝良の力を認めるのを聞いたのは初めてで「ありがとうございます！」と自分のことでもないのに小田切に勢いよく頭を下げた。小田切は少しじろいだように身を引いて、百花の履歴書のコピーを手を取った。

「山路さんは、競技用車いす部門への配属を希望しているとのことですが」

「はい。友人が最高のプレーができるような、いい競技用車いすを作りたいです」  
「それでは、君島選手がもし将来的に競技をやめたら、あなたにとっても車いす作りは意味がなくなるんですか？」

予想もしていなかった質問に、え、と声ももれた。

そんなことはない、と答えようとしたが、本当にそんなことはないのか？ と自分の内なる声に問いただされて迷いが生じ、小田切のこちらを見据えて逸れることのない視線に気づくとなおさら言葉がもつれて、百花は頭が真っ白になってしまった。

石巻が眼鏡のブリッジを押し上げながら咳払いした。

「小田切くん、そういう小意地の悪い質問で若者をいじめるのはよしなさい。圧迫面接だのパワハラだの、今はすぐにネットで広まるのは知ってるだろう」

「自分はいじめる意図はなく、ただ疑問に思ったことを」

「人が何かをめざすきっかけは本当にさまざまだし、それはたいいてい身近で個人的なものだったりします。ただ、きっかけはきっかけでその人の意志をずっと規定するものではないでしょう。年月と経験を重ねることに仕事への思いは変化していくあなたもよく知っているようにね」

由利子がやわらかく笑いかけると、小田切は少し黙ってから「その通りです」と声を落とした。由利子は百花と目を合わせると、ゆるぎない微笑を浮かべた。

「あなたは車いすテニスをするお友達のために、いい車いすを作りたいと言いますね。では『いい車いす』とは、どんなものだと思いますか？」

この質問にもまた百花は焦った。採用試験のために勉強したから車いす作りの工程はおおむねわかっている。でも『いい車いす』の定義とは何なのか。速いこと？ 軽いこと？ 丈夫なこと？ どれも重要だが決定的ではない気がして、脈ばかり速くなる。

それでも、この問いかけには、全力で答えなければならぬ。そう思った。どんなに拙くても、今の自分が持っている精いっぱい言葉で、自分が作りたいと願う車いすのことを、自分が一緒に働きたいと望むこの人たちに伝えなければならぬ。「――その人を、自由に作る車いすです」

長い沈黙のあとに口を開いた時、声が少し震えた。こんなにも真剣に言葉を探したことも、こんなにも切実に伝えたいと願ったことも、今までになかった。

「その人が、やりたいことを、やりたい時に、やりたいようにできる。その手助けをする車いすです。そんな、その人を自由に作る車いすを、わたしは作りたいです」

言葉を切ったその時、宝良の姿が（）裏をよぎった。ポニーテールをひるがえし、手の皮が剥けるまで車いすを走らせ、球を追ってテニスコート駆けまわる宝良。ああ、そうだ。23・77×10・97メートルのコート。あの場所でもっと宝良を自由に作る車いすを作る。それが、わたしの夢だ。

長机の上で手を重ねた藤沢由利子が、親愛のこもったほほえみを浮かべた。「私たちも、そんな車いすを作りたいと常に願っています。藤沢の車いすを必要としてくれるすべての人のために」

この面接から三日後、自宅に藤沢製作所の社名入りの封筒が届いた。

百花は震える指で封を開け、採用通知を見た時、玄関先の郵便受けの前で泣いた。

(阿部暁子『パラ・スター』による。一部改変)

(注) インターハイ…全国高等学校総合体育大会のこと。チェアワーク…車いす操作。グレード…等級。チェアスキル…車いす操作の熟達した技術。ブリッジ…眼鏡の左右のレンズをつなぐ部分。

やや難ウ

問四 次の「……」の中は、本文中の『いい車いす』とは、どんなものだと思いますか？ の前後における描写についてまとめたものである。ア、イに入る内容を本文中から探し、アは七字で、イは十一字で、それぞれ本文中からそのまま抜き出して書け。また、ウに入る内容を、二十字以上、二十五字以内で考えて書け。ただし、実現 という語句を必ず使うこと。実現 については、活用させてもよい。

「ア」から、動揺せず、安心して自分の考えを述べてほしいという由利子の思いが読み取れる。その思いを感じ取った百花は、自分の考えを全力で由利子に伝えた。百花の言葉を聞いた後のより温かみのある「イ」からは、「ウ」という百花の考えが、由利子の常に願っていることと合致したことが読み取れる。

「ア」から、動揺せず、安心して自分の考えを述べてほしいという由利子の思いが読み取れる。その思いを感じ取った百花は、自分の考えを全力で由利子に伝えた。百花の言葉を聞いた後のより温かみのある「イ」からは、「ウ」という百花の考えが、由利子の常に願っていることと合致したことが読み取れる。



次のように解きます。

問四 空欄ア、空欄イの解き方は省略

(答) ア:ゆるぎない微笑 イ:親愛のこもったほほえみ

問四 空欄ウ

[1]問われている内容と答え方の条件を確認する。

- 問われている内容…傍線部「『いい車いす』とは、どんなものだと思いますか?」という質問についての「百花の考え」を読み取る。
  - ⇒空欄ウの後には、「という百花の考えが、由利子の常に願っていることと合致した」とあるので、空欄ウに入るのは、由利子が常に願っていることとぴったり合う内容である。
- 答え方の条件…指定された語句(実現:活用させてもよい)を用いて、20字以上、25字以内で考えて書く。
  - ⇒指定された語句が、本文中に用いられているかどうかを確認する。

〈実現〉・本文中に用いられていない。 ⇒ \*実現をどのように用いるかを考えて解答する必要がある。

[2]『いい車いす』について、「百花の考え」が述べられた部分を本文中から探す。

- ・傍線部の2段落あと…「—— その人を、自由にする車いすです」【※1】
- ・傍線部の5段落あと…「その人が、やりたいことを、やりたい時に、やりたいようにできる。その手助けをする車いすです。そんな、その人を自由にする車いすを、わたしは作りたいです」【※2】
- (【※2】は、【※1】を詳しく述べた部分であり、『いい車いす』についての「百花の考え」が述べられた部分。)
- ⇒本文の最後のあたりに、『いい車いす』についての「百花の考え」を受け、「私たちも、そんな車いすを作りたいと常に願っています。」という由利子の言葉がある。
  - 【※2】の「百花の考え」は、由利子が常に願っていることとぴったり合う内容であると言える。

[3]本文中から探した部分【※2】について、答え方の条件に従って解答を書く。

- 【※2】の部分にある指示語が指し示す内容を明らかにする。
  - ・「その人」=車いすに乗る人
  - ・「その手助けをする車いす」=車いすに乗る人が、やりたいことを、やりたい時に、やりたいようにできることを手助けする車いす
- 指定された語句(実現)をどのように用いるかを考える。(実現は、実現するとして用いてもよい。)
  - ・何の実現か(何を実現するか)を考える。
  - 「その人が、やりたいことを、やりたい時に、やりたいようにできる。」(【※2】の部分の一文目)
    - 車いすに乗る人のやりたいことの実現

**ポイント** 指定された語句が本文中に用いられていない場合は、本文中に述べられていることをヒントに、その語句をどのように用いて解答するかを考えよう。

- 字数を気にせず書いてみた後に、指定された字数[20字以上、25字以内]に合うように調整していく。
  - ・車いすに乗る人のやりたいことの実現を手助けする車いすを作りたい(という百花の考え)[31字:字数超過]

↓ \*「車いす」という言葉の重複を解消する。

- ・乗る人のやりたいことの実現を手助けする車いすを作りたい(という百花の考え)[27字:字数超過]

↓ \*「やりたいこと」を字数の短い言葉に置き換える。

- ・乗る人の望みの実現を手助けする車いすを作りたい(という百花の考え)[23字:字数制限内]

〈実現するを用いた場合も、同様に調整していく。〉

- ・乗る人の望みを実現する手助けをする車いすを作りたい(という百花の考え)[25字:字数制限内]

○考えた解答を空欄に補充し、文意が通るかどうかを確かめる。

- ・百花の言葉を聞いた後のより温かみのある「親愛のこもったほほえみ」からは、乗る人の望みの実現を手助けする車いすを作りたいという百花の考えが、由利子の常に願っていることと合致したことが読み取れる。→文意が通る
- ・百花の言葉を聞いた後のより温かみのある「親愛のこもったほほえみ」からは、乗る人の望みを実現する手助けをする車いすを作りたいという百花の考えが、由利子の常に願っていることと合致したことが読み取れる。→文意が通る

(答) (例) 乗る人の望みの実現を手助けする車いすを作りたい [23字]  
(例) 乗る人の望みを実現する手助けをする車いすを作りたい [25字]

【三】次は、中国の唐の時代の『蒙求』の一部と、それを題材にした鎌倉時代末期の『徒然草』の一部と、『徒然草』の現代語訳である。これらを読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

『蒙求』

許由、箕山に隠れ、盃器無し。手を以て水を捧げて之を飲む。人一瓢を遺り、以て操りて飲むことを得たり。飲みをはりて木の上に掛くるに、風吹き溼溼として声有り。由以て煩はしと為し、遂に之を去る。

(注) 箕山：今の江西省にある山。 溼溼：風の音の意。

(『新釈漢文大系 第58巻 蒙求 上』による。一部改変)

『徒然草』

人は、おのれをつづまやかにし、おごりを退けて、財を持たず、世をむさぼらざらんぞ、いみじかるべき。昔より、賢き人の富めるは稀なり。唐土に許由と言ひつる人は、さらに身にしがへる貯へもなく、水をも手して捧げて飲みけるを見て、なりびきこといふ物を人の得させたりければ、ある時、木の枝にかけたりけるが、風に吹かれて鳴りけるを、かしましと捨てつ。また手におすびてぞ水も飲みける。いかばかり心のうち涼しかりけん。孫晨は、冬月に衾なくて、藁一束ありけるを、夕には是に臥し、朝には収めけり。

もろこしの人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけり、これらの人は、語りも伝ふべからず。

現代語訳

人は、わが身をつつましくして、ぜいたくをしりぞけ、財宝を所有せず、俗世間の名誉や利益をむやみに欲しがらないのが、立派だといえよう。昔から、賢人であって富裕な人は、めったにいないものである。

中国で許由といった人は、少しも身について貯えもなく、水さえも手でもってすくいあげて飲んでいたのを人を見て、なりびきこ(瓢箪)というものを与えたところが、ある時、木の枝にかけてあったその瓢箪が、風に吹かれて鳴ったのを、やかましいといって捨ててしまった。それからはまた前のように手ですくって水も飲んだ。

【I】孫晨は、冬季に夜具がなくて、一束の藁があったのを、日暮れになるとこれに寝て、朝になると取りかたづけたということである。中国の人は、これらを立派なことだと思えばこそ、書き残して後世にも伝えたのであろうが、我が国の人は、語り伝えさえしそうにもないことである。

(注) 瓢箪：ウリ科の植物。熟した実の中をくりぬいたものを、水をすくう道具などとして用いる。

(『新編日本古典文学全集 44 徒然草』による。一部改変)

【難】問五 次の□の中は、『蒙求』、『徒然草』を読んだ小島さんと堤さんと先生が、会話をしている場面である。

小島さん 『蒙求』に出てくる「許由」は、水をすくう道具でさえ必要ないと思うような【ア】な生活を実践した人物だと思っています。

堤さん そうですね。出家して草庵で暮らしたといわれる兼好法師は、『徒然草』のこの部分で、ぜいたくを嫌ってつましく生きた立派な人物の例として「許由」と「孫晨」の逸話を引用しているのでしょうか。

先生 「許由」が俗世間を避けて、『蒙求』の中にある「箕山」で暮らしたのは、王が「許由」に帝位を譲ろうとした時に、それを断ったのがきっかけであるという逸話もありますよ。

堤さん その逸話も踏まえると、自分の名誉や利益を求める気持ちがない「許由」は、【イ】を持たない人物でもあったと思います。

小島さん 『徒然草』には、そのような人物について、【ウ】ことへの兼好法師の嘆きが表れていると思います。

先生 二人とも、『蒙求』と『徒然草』を比べて読んで、考えを深めることができましたね。

- (2) (1) 【ア】、【イ】に最もよく当てはまる熟語を、それぞれ漢字二字で考えて書け。  
 【ウ】に入る内容を、十字以上、十五字以内で考えて書け。





次のように解きます。

問五(1) 空欄ア・イ

[1] 問われている内容と答え方の条件を確認する。

- 問われている内容…許由の人物像について読み取る。
  - ⇒空欄アの後：「な生活を実践した人物」→ どのような生活を実践した人物かを読み取る。
  - ⇒空欄イの後：「を持たない人物でもあった」→ 何を持たない人物かを読み取る。
- 答え方の条件…漢字二字の熟語を考えて書く。

[2] 空欄の前に述べられている内容を確認する。

**ポイント** 空欄の前後の表現をヒントに考えよう。

- 空欄アの前：「水をすくう道具でさえ必要ないと思うような」
  - ⇒許由は、ぜいたくをしない生活をしていることが読み取れる。
- 空欄イの前：「自分の名誉や利益を求める気持ちがない『許由』は、」
  - ⇒許由は、自分の名誉や利益を求める気持ちを持っていないことが読み取れる。

[3] 答え方の条件に従って解答を書く。

**ポイント** 日頃から様々な言葉に関心を持ち、使える語彙を増やしておこう。

- それぞれの空欄に合う二字熟語を考える。
  - ・空欄ア：ぜいたくをしない生活という意味の二字熟語… **質素、簡素**
  - ・空欄イ：名誉や利益を求める気持ちという意味の二字熟語… **私欲、私心**
- 考えた解答を空欄に補充し、文意が通るかどうかを確認する。
  - ・空欄ア：『蒙求』に出てくる「許由」は、水をすくう道具でさえ必要ないと思うような **質素(簡素)** な生活を実践した人物だと思います。→文意が通る
  - ・空欄イ：その逸話も踏まえ、自分の名誉や利益を求める気持ちがない「許由」は、**私欲(私心)** を持たない人物でもあったと思います。→文意が通る

(答) ア：(例) 質素

(答) イ：(例) 私欲

次のように解きます。



問五(2) 空欄ウ

[1] 問われている内容と答え方の条件を確認する。

- 問われている内容…『徒然草』に表れている兼好法師の嘆きについて読み取る。
  - ⇒空欄の後に着目すると、どのようなことへの兼好法師の嘆きであるかを読み取る。
- 答え方の条件…10字以上、15字以内で考えて書く。

[2] 『徒然草』の現代語訳から、兼好法師の嘆きが表れている部分を探す。

- 三段落目に、「中国の人は、これらを立派なことだと思えばこそ、書き残して後世にも伝えたのであろうが、我が国の人は、語り伝えさえしそへにもないことである。」とある。
  - ⇒中国の人と比較して、「我が国の人は、語り伝えさえしそへにもない」ことが兼好法師の嘆きであると読み取れる。また、「我が国の人は、日本の人であると読み取れる。

**ポイント** 現代語訳を参考にして、古典の原文で述べられている内容を読み取ろう。

[3] 答え方の条件に従って解答を書く。

- 字数を気にせず書いてみた後に、指定された字数[10字以上、15字以内]に合うように調整していく。
  - ・日本の人は、語り伝えさえしそへにもない(ことへの兼好法師の嘆き) [19字：字数超過]
  - ↓ **\*重要でない部分を削る。**
  - ・日本の人は語り伝えさえしない(ことへの兼好法師の嘆き) [14字：字数制限内]
- 考えた解答を空欄に補充し、文意が通るかどうかを確認する。
  - ・『徒然草』には、そのような人物について、**日本の人は語り伝えさえしない** ことへの兼好法師の嘆きが表れていると思います。→文意が通る

(答) (例) 日本の人は語り伝えさえしない [14字]